opusdei.org

年間第12週・火曜日101狭い道

- 天国への道は狭く険しい。節制と犠牲。 - 犠牲の必要性。安楽志向とブルジョア化との戦い。 - 節制と犠牲の幾つかの例

2024/04/28

年間第12週・火曜日

101狭い道

- 天国への道は狭く険しい。節制と 犠牲。

- 犠牲の必要性。安楽志向とブルジョア化との戦い。
- 節制と犠牲の幾つかの例

101.1 天国に至る道は狭い。節制と犠牲

エルサレムに行く途中で誰かがイエスに聞いた。「主よ、救われる直接 少ないのですか?」「イエスは直われていることではお答えにならず、るようにない方にならが、かだ」。これないのではお多いのではない。ではないで、聖マケイはでで、聖マケイはでで、ではないででではない。ではなんと狭くでいます。「命にはないと変した。それを見出するはない。それを見出するにない。それを見出するにない。これを見出するに、それを見出するに、それを見出するに、それを見出するに、それを見出するに、それを見出するに、それを見出するに、

人生は、神に至る道です。それは、 短い道です。旅の目的地に着いたと き、扉は開かれ、そこに入れること が大切です。私たちは、歴史の完成 に向けて、旅を先へと急ぎます。主ご自身が言われます。見よ、わたしはすぐに来る。わたしは、報いを携えて来て、それぞれの行いに応じて報いる。(黙示録22・12-13)³

二つの道、人生への二つの態度があ ります。一つは、身体を甘やかし、 犠牲と償いを避け、最も気楽で愉快 な道を探すことです。もう一方は、 感覚を守り、身体を抑制する努力を し、神のみ旨を探し求めることで す。必要なものだけを持ち、物質的 なものは通り過ぎて行くだけなので 重要性をあまり置かない巡礼者のよ うに生きるか、あるいは安楽を求 め、単に手段としてではなく、快楽 や物質的なものを人生の目的として 自分をがんじがらめにして生きるか のどちらかです。

二つの道のうち、一つは天国に通じます。もう一方は滅びに通じます。 そして、この道を行く人は多い。私

な手段を選ばなければならないから です。もし、兵士が、部隊の本部に 行きたいと言っておきながら、故意 に、敵の戦線に诵じる道を選ぶな ら、行きたくないと口では言ってお きながら、実際はそこへ行きたいと 思っているに違いありません⁴。ま た、もし、自分にとって都合がよい ので、その道を選んだということで あれば、本当にその人が望んでいる ものは、その道それ自体ということ になりますので、その人は、その道 がどこに通じるのか、少しも気にし ません。

多くの人々は、自分の生活のすぐ眼前の目標を追いかけて過ごしています。自分の一生のすべてでありにかいまでの目的である神のことを気にかけていません。その展望を得るために、私たちは、「石や木を彫るのとでしばらざらを削っていかなければならない。各自の生活に付きまとう欠点

を償いの精神と小さな犠牲で取り除いていくのである」⁵。

101.2 償いの必要性、安楽を求めることへの戦い

私たちは、得るのは何もないと知りながらも、人生を歩む中で広い道、少なくとも楽をしていける道を好むことがあります。天国に通じない広い門を選ぶのです。頻繁に、私たちは、物質を所有したいという制御できないほど過度な望みに圧倒されています。

主が私たちに示す道は喜びに溢れたものです。しかし、それと同時に、十字架と犠牲の道、節制と犠牲の道、節制と犠牲の道、です。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなされば、中粒のままである。死なければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」

永遠の生命に入りたいと望むなら、 この世の生活で、節制の徳を実行す る必要があります。私たちキリスト 者は、所有し、使用するものに対し て、離脱の精神をもって生きなけれ ばなりません。物質的な物に対して 行き過ぎた心配をしてはいけませ ん。必要以上に余分な物を得ようと したり、それに執着したりすべきで はありません。意向の正しさは、そ れが必要なところならどこでも、犠 牪の精神で生きようとするところに 表れるはずです。「経済によって支 配されているように見え、彼らの個 人的、社会生活の大部分は、一種の 経済万能主義に染まっている| 8、 そのような人になることはできませ ん。そのような人々は生涯の目標を 物的な財に置き、幸せはそこにある と考え、人生とは神に向かう道であ ることをいとも容易に忘れて、焦燥 感に駆られて物を追い求めます。私 たちの人生とは神へと向かう道にす ぎません。

私たちを戒めています。「注意しなさい」。主は言われます。「放縦や深酒、生活の煩いで、心が鈍く「腰ないように注意しなさい」。」。して来るい。主人が婚宴から帰って、なさい。主人が婚宴から帰ってて下をたたくとき、すぐに開けよさい」10。

安楽で、気楽な道、犠牲を避けるに落なが私たちにおりにまるといばらいます。 を歩めば、神が私たちにの間まではいばらいます。 を想恵はしばない言葉を間にます。 を結ばない言葉を間にます。 が、ではない人生の思いが、実に至いたされたである。 が、でであるが、でであるが、ででいたものであるが、であるが、でであるが、でであるが、ででいた。 でに至らない人たすれば、はできまけくはできません。 は、ことはできません。 は、ことはできません。 は、ことはできません。 私たちは、神に向かって急いで歩みます。私たちの唯一の関心は、道を誤らないことです。私たちは、本当に、犠牲と償い、他の人々に仕える喜びと奉献の正しい道にいますか?常に私たちを誘う安易さと安楽への望みに打ち勝つよう、真剣な努力をしていますか?

101.3節制と犠牲の模範

節制という狭い道を歩むためには、 私たちは、外的感覚、視覚、聴覚、 味覚の犠牲も行わなければなりない。 「体には適量よりも控(ひか)も めに与えなければならないまう」 がと、体に裏切られてしまう。 慰め、気まぐれなどの楽しの普通が とだで、償いをするための機会がた くさんあります。辛いけれど絶え間

 と節制の良い模範は、テレビを使用 する時の節度や技術が、私たちに提 供する他の享楽や娯楽手段にも表れ るはずです。

狭い道は安全で人を引きつけます。 その道に沿って、節制と犠牲を確実 にすることで、私たちは喜びにも出 会うのです。「あなたができる限り のことをすれば、たとえ十字架がな くなることはないとしても、たいそ う幸福になれるはずです。その十字 架は、十字架と言っても今や刑具で はなくて、玉座なのです。キリスト はその玉座からすべてをお始めにな る。そして、その傍らには私たちの 母でもある主の母がいらっしゃいま す。聖母マリアは、御子の跡に従う ために必要な力を、送ってくださる ことでしょう」¹⁵。

¹ ルカ13:23

²マタイ7:14

- 3 第 2 バチカン公会議, 現代世界憲章. 4 5
- ⁴ F.Suarez, The Narrow Gate
- ⁵ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『鍛』, 403 参照
- 6 ルカ9:23
- ⁷ ヨハネ12:24
- ⁸ 第二バチカン公会議, loc cit, 63
- 9 ルカ21:34
- 10 ルカ12:35
- 11 ルカ8:14
- $\frac{12}{2}$ St Peter of Alcantara, Treatise on Prayer and Meditation, 1 1 : 3
- ¹³ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『道』. 196

 $\frac{14}{2}$ 聖ホセマリア・エスクリバー, Letter, 2 4 March 1 9 3 0

¹⁵ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『神の朋友』, 141

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-XII-ka/ (2025/11/07)